

施策評価調書

1 施策の概要

(1)	施策名	教育内容の充実／学ぶ楽しさを実感できる教育の展開					
(2)	総合計画の体系	第	4	章	個性がひかる学びと文化創造のまちづくり		
		第	1	節	学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり		
		第	12	細節	教育内容の充実／学ぶ楽しさを実感できる教育の展開		
(3)	事業費など (単位:千円)	項目\年度(平成)		26年度決算額	27年度決算見込額	28年度予算額	
		事業費(A)		84,082	82,230	132,039	
		従事職員数		4.37 人	3.45 人	5.90 人	
		所要人件費(B)		34,736	28,821	48,203	
		総事業費(A+B)		118,818	111,051	180,242	
		財源内訳	収入	国庫支出金	0	0	0
				府支出金	0	0	0
				その他	84	0	220
			市負担	地方債	0	0	0
				その他	0	0	0
一般財源	118,734			111,051	180,022		

2 評価の指標(施策に係る成果指標)

指標項目		項目\年度(平成)	26年度実績	27年度実績	28年度計画
指標内容	小中一貫教育校(千里みらい夢学園)以外の17中学校ブロックにおける小中一貫教育推進のための取組回数	目標値 (単位:回)	0.00	459.00	459.00
		実績値 (単位:回)	0.00	473.00	/
目標値の積算方法	会議(12)、児童生徒校種間交流(3)、オープンスクール(3)、交換授業(4)、研究授業(3)、合同研修(2)	達成度(%)	0.0	103.1	/
指標内容	いじめ事案の解消率	目標値 (単位:%)	100.00	100.00	100.00
		実績値 (単位:%)	96.40	0.00	/
目標値の積算方法	いじめが生起してから解決に至ったケース	達成度(%)	96.4	0.0	/

3 施策の点検(施策を進めるうえでの課題)

変化の激しいこれからの時代を生き抜くためには、子どもたちに知・徳・体のバランスの取れた「総合的人間力」の育成を図ることが重要である。そのためには、小中一貫教育を基盤とした取組を今後も充実させることが大切である。また、子どもたちを取り巻く社会において、児童虐待等厳しい教育課題がある。子どもたちを守り心身の健全な育成を図るため、スクールソーシャルワーカーを含む子どもサポートチームを活用するとともに、小学校1学年児童に対しきめ細かな指導の充実と虐待等の早期発見・対応を図る取組等を日々推進している。

また、放課後学習を展開することで、学習習慣を身につけ学習意欲の向上を図っている。

4 施策の評価

次年度の優先順位	施策を構成する事務事業名	室課名	事業番号	市単独事業区分	施策への貢献度	各視点からの評価 (20 → 4) 高 → 低						今後の方向性 (実施計画)
						妥当性	有効性	効率性	公平性	持続可能性	合計	
1	小中一貫教育推進事業	指導室	00902	全部	大	18	18	16	18	20	90	継続
2	子どもサポートチーム事業	指導室	00893	全部	大	20	16	20	18	10	84	継続
3	小学校スタートアップ事業	指導室	00882	全部	大	20	18	18	16	14	86	継続
4	読書活動支援者配置事業	指導室	00880	全部	大	20	16	16	18	14	84	拡充
5	放課後学習支援事業	指導室	00895	全部	大	16	18	18	18	18	88	継続
6	中学校非常勤講師配置事業	指導室	00881	全部	大	20	18	14	18	14	84	継続
7	小学校副読本作成事業	指導室	00907	全部	大	20	18	18	18	18	92	継続
8	部活動活性化支援事業	指導室	00894	全部	大	18	20	18	16	16	88	継続
9	教育活動支援事業	指導室	00900	全部	大	16	18	16	12	18	80	継続
10	小学校学校案内作成事業	指導室	00897	全部	中	18	16	16	16	18	84	継続
11	中学校学校案内・生徒手帳作成事業	指導室	00899	全部	中	14	20	16	18	16	84	継続
12	環境教育推進事業	指導室	00903	全部	中	16	16	20	18	14	84	継続
13	米沢富美子こども科学賞(吹田市子ども科学作品展)事業	指導室	00901	全部	中	16	18	12	18	16	80	継続
14											0	
優先順位をつけるにあたっての考え方		<p>施策への貢献度の高いものから優先順位をつけている。小中一貫教育を基盤とし総合的人間力育成の取組はもちろん、いじめ・不登校、児童虐待等、個別課題を有する児童・生徒へのサポート体制の充実は今後も必要である。また、小1プロブレムの未然防止や個別対応の充実を図ることも今後必要な取組であり、高い順位とした。</p>										